

湯田小学校からの報告

「みずすまし」水生生物調査結果表

調 査 場 所 名 (No.)			内保町 No.1				内保町 No.2				No.3				
月 日 時 刻			6月11日		14時55分		9月27日		14時55分						
天 気			曇り				晴れ								
水 温 (°C)			19.0 °C				16.0 °C								
気 温 (°C)			23.0 °C				24.0 °C								
川 幅 (m)			1.0 m				1.0 m								
河 川 名			用水路				用水路								
生 物 を 採 取 し た 場 所			全面				全面								
水 深 (cm)			15.0 cm				15.0 cm								
流 速 (cm / s)			8.0 cm/s				8.0 cm/s								
水 の よ う す		指標生物													
I き れ い	1	カワゲラ類		○				○							
	2	ナガレトビゲラ・ヤマトビゲラ クロツツトビゲラ類		○				○							
	3	ヒラタカゲロウ類													
	4	ブユ類													
	5	ヘビトンボ類													
	6	ガガンボ類													
	7	サワガニ		○				○							
I ・ II 共 通	8	ウスムシ類													
	9	2以外のトビゲラ類													
	10	3、14以外のカゲロウ類		○				●							
II 少しよごれている	11	ヒラ外ロムシ類													
	12	ジジミ類		○											
II ・ III 共 通	13	カワニナ		●				○							
III よごれている	14	サホコカゲロウ													
	15	ヒル類													
	16	ミスムシ													
	17	モノアラガイ		○				○							
III ・ IV 共 通	18	サカマキガイ													
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ													
	20	イトミミズ類													
	21	ハナアブ類													
水 質 判 定 表	水のような区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	4	3	2		4	2	2						
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)		1	1		1	1							
	合 計 (1欄+2欄)		4	4	3		5	3	2						
	判定結果(合計が最も大きい区分)		I ・ II				I								

調査考察、活動内容等

湯田校の水生物調査隊は、4年生から6年生の理科クラブの児童で構成されており、月曜日の6校時がクラブの時間となっています。活動内容は、生物だけにかかわらず、ペットボトルロケットや空気砲づくりなど様々な実験に取り組んでいます。

活動場所は、湯田小学校から近い水路としました。この水路は草野川の伏流水がわき出ており、美しい水が巡っています。また、昨年度と同じ活動場所であり、昨年度と比較することができました。

水生物調査は、天候や1単位時間という制約があるということを考え、効率よく活動できるように事前に活動の目的や方法を説明した上で、調査を行いました。

「川の生き物を調べよう」の下敷きを4人グループに1枚渡し、自分で捕まえた生き物が何なのかを調べ、どんな生き物が多く生息しているのかを調査しました。下敷きに載っていない生き物については、図鑑をもとに調べるようにしました。子どもたちの中には、生き物採取が好きで、親子で川に生き物を捕まえに行くことがある子どももおり、採取のコツなどを友だち同士で教え合う様子も見られました。この活動は子どもたちにとって地域の様子や生息している生き物に興味をもつ良い機会となっています。



【活用した下敷き】

活動の様子

○6月11日

今年度初めての水生物調査でした。この水路は、途中で寺院の境内に引き込まれ、野菜を洗うなどカバタとして今でも利用されています。川底は砂地のところとコンクリートが張っているところがありました。

子どもたちには、川の生き物を調べる際に大切なことを事前指導しました。内容は安全な服装、水生物調査をする意義などについてです。その中でも特に「川に生きる生き物の命を無駄にしないためにも有意義な調査にしよう。」という話をしました。すると、どの子どもも一生懸命に調査する姿が見られました。

各自がバケツ、魚とり網を持って入りました。採取した生き物はバットに入れて、下敷きや図鑑で名前を確認しました。子どもたちの多くは、川底にたくさんの種類の生き物が生息していることに驚いているようでした。カゲロウを見つけたときには、カゲロウの中でもどんな種類なのか



【水路に生息するカワニナ】

図鑑で名前を確認することができました。前年度に多く見られたヤゴは見つけることができなかったのですが、ゲンジボタルのエサとなるカワニナを多く見つけることができました。また、昆虫以外にもカワムツやドンコ、ヨシノボリなどの魚も見ることができました。しかし、時間も短かったこともあり、捕まえることはできずに終わってしまい、子どもたちから「もっとしたかった」という声が多く挙がり、環境への関心を高めることに大きくつながったと感じました。

最後には、「季節が変わると、生き物の数や種類は変わりますか。」という疑問を子どもたちに投げかけ、調査を終了しました。



【魚が泳いでいた水路】



【水路に生息するドンコ】

○9月27日

前回と同じ場所で採取を行いました。前回と比べ、どのように変わっているのか子どもたちと予想して、観察を行いました。前回と比べて、生き物の数は大きくは変わらず、カゲロウの数が少し多かったぐらいでした。子どもたちは網の使い方が上手になり、スムーズに水生生物をとることができました。



【採取の様子】



【水路に生息するカゲロウ】

まとめ

<子どもたちの感想>

- ・水路にこんなたくさんの生き物がいるなんて驚きました。
- ・虫は苦手ですが、楽しく生き物観察をすることができました。
- ・図鑑を使ってどんな名前の生き物かを調べるのが楽しかったです。
- ・よく見るとかわいい昆虫もいて、楽しく調査することができました。
- ・生き物の命を大切に考えて、生き物を観察することができました。また、自分でも観察に行きたいと思います。
- ・川には魚がすんでいるのは知っていたけど、魚が食べる生き物がたくさんいることにびっくりしました。
- ・どんな虫かを図鑑で調べるのが楽しかったです。

子どもたちの感想からは、川の生き物と触れ合う楽しさやその数や種類に驚きが見られました。普段接することの少ない子どもたちだからこそ、こういった体験が貴重であり、子どもと川などの自然環境をつなげることになると感じました。

<水生生物調査を終えて>

湯田小学校から徒歩5分ほどの所にある水路ですが、子どもたちは普段見ることはなかったようです。「どんな生き物がいると思う？」と問いかけても、「何もいないと思う」「わからへん」と答えるなど、水路が子どもにとって遠い存在であることがわかりました。このような子どもたちに、今回の水生生物調査はとても良い経験になったと思います。また、私自身も身近な環境がどのようなになっているのか、その一端を知るよい機会となりました。

調査地点に着き、初めに子どもたちが「ビニール袋がある」と口々に言いました。こういった川の実態に対する発言が、川を汚さない行動への意識づけにつながるのだと実感しました。今後はさらに行動へとつながるよう子どもたちの意識の向上を目指したいです。しかし、今回の学習では、実際にどんなことをして自然を大切にしていけるのかを考えることができませんでした。今後は川をきれいに保つために、自分たちの生活の中でできることは何か考えさせ、話し合い、実行するまでの活動を大切にしていきたいと思います。